

萬葉集略解

八

				和書門類
三册	九架	三七函	四三三〇號	

庫	文	門	內	
三册	九架	三七函	四三三〇號	和書門類

內閣文庫	
番號	和 43310
冊數	32 (12)
函號	263 41



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007. TM: Kodak



... 卷第八 ...
... 高田 ...

萬葉集卷第八

淺草文庫

春雜歌

志貴皇子權御歌一首 ○ 鏡王女歌一首 ○ 駿河采女歌

一首 ○ 尾張連歌二首 名闕 ○ 中納言阿倍廣庭卿歌一

首 ○ 山部宿禰赤人歌四首 ○ 草香山歌一首 ○ 櫻花歌

一首 并 短歌 ○ 山部宿禰赤人歌一首 ○ 大伴坂上郎女

柳歌二首 ○ 大伴宿禰三林梅歌一首 林八依の誤 ○ 厚見王歌

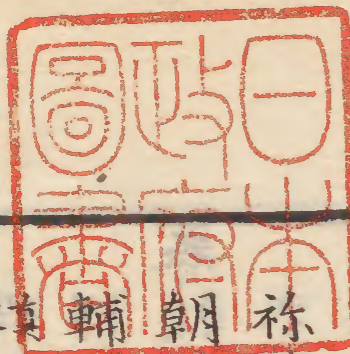
一首 今本厚と原に誤 ○ 大伴宿禰村上梅歌二首 村と村に誤 ○ 大伴宿

禰駿河麻呂歌一首 ○ 中臣朝臣武良自歌一首 ○ 河邊

朝臣東人歌一首 ○ 大伴宿禰家持鸞歌一首 ○ 大藏少

輔丹比屋主真人歌一首 ○ 丹比真人乙麻呂哥一首 屋主

真人之子也 第二 ○ 高田女王歌一首 高安之女也 ○ 大



伴坂上郎女歌一首○大伴宿祢家持春鳩歌一首○大伴坂上郎女歌一首

春相聞

大伴宿祢家持贈坂上家之大嬢歌一首○大伴田村家

毛大嬢與妹坂上大嬢歌一首毛之○大伴宿祢坂上郎女歌

一首宿祢の家持贈の三字落し○笠女郎贈大伴家持歌一首○紀女郎

歌一首名曰小廣

天平五年癸酉

春閏三月笈朝臣金村贈入唐使歌一首并短歌○藤原

朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首娘子和歌○厚見王贈

久米女郎歌一首久米女郎報贈歌一首○紀女郎贈

大伴宿祢家持歌二首大伴家持贈和歌二首○大伴

万解八日

家持贈坂上大嬢歌一首

夏雜歌

藤原夫人歌一首○志貴皇子御歌一首○弓削皇子御

歌一首○小治田廣瀨王霍公鳥歌一首○沙彌霍公鳥

歌一首伊弉上三方の字と為せり○刀理宣令歌一首○山部宿禰赤人

歌一首○式部大輔石上堅魚朝臣歌一首太宰帥大

伴卿和歌一首○大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首

○大伴坂上郎女霍公鳥歌一首○小治田朝臣廣耳歌

一首○大伴家持霍公鳥歌一首○同家持橘歌一首○

同家持晚蟬歌一首○大伴書持歌二首○大伴清繩歌

一首○庵君諸立歌一首○大伴坂上郎女歌一首○大

伴家持唐棣花歌一首○同家持恨霍公鳥晚喧歌二首

○同家持權霍公鳥歌一首○同家持惜橘花歌一首○
同家持霍公鳥歌一首○同家持雨日聞霍公鳥喧歌一
首○橘歌一首遊行女婦○大伴村上橘歌一首○大伴
家持霍公鳥歌二首○同家持石竹花歌一首○惜不登
筑波山歌一首惜八根
の邊心

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首○大伴四繩宴吟歌一首○大伴
坂上郎女歌一首○小治田朝臣廣耳歌一首○大伴坂
上郎女歌一首○紀朝臣豐河歌一首○高安歌一首○
大神女郎贈大伴家持歌一首○大伴田村大嬢與妹坂
上大嬢歌一首○大伴家持攀橘花贈坂上大嬢歌一首
并短歌○同家持贈紀女郎歌一首

秋雜歌

岡本天皇御製哥一首○大津皇子御歌一首○穗積皇
子御歌二首全一首
ハ字女
の邊心○但馬皇子御歌一首云子部王作
○山部王惜秋葉歌一首○長屋王歌一首○山上
憶良七夕歌十二首○太宰諸卿大夫并官人等宴筑前
國蘆城驛家歌二首○笠朝臣金村伊香山作歌二首村
持○石川朝臣老夫歌一首○藤原宇合卿歌一首○
縁達帥歌帥ハ文子
師ハ文子○山上臣憶良詠秋野花歌二首○天
皇御製歌二首○太宰帥大伴卿歌二首○三原王歌一
首○湯原王七夕歌二首○市原王七夕歌一首○藤原
八束歌一首ハ文子
朝臣の字○大伴坂上郎女晚芽子歌一首○
典鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿祢稻公跡見庄

作歌一首○湯原王鳴鹿歌一首○市原王歌一首○湯
原王蟋蟀歌一首○衛門大尉大伴宿祢稻公歌一首
大伴家持和歌一首○安貴王歌一首○忌部首黑麻呂歌
一首○故郷豐浦寺之尼私房宴歌三首○大伴坂上郎女
跡見田庄作歌二首○巫部麻蕨娘女鴈歌一首○大伴
家持和歌一首○日置長枝娘子歌一首○大伴家持和
歌一首○同家持秋歌四首○藤原朝臣八束歌二首○
大伴家持白露歌一首○大伴利上歌一首利上村の邊○右大
臣橘家宴歌七首○橘宿祢奈良九結集宴歌十一首作者十人
○大伴坂上郎女竹田庄作歌二首○佛前
唱歌一首○大伴宿祢像見歌一首○大伴宿祢家持到
娘子門作歌一首○同家持秋歌三首○内舍人石川朝

万解八目 三

秋相聞
臣廣成歌二首○大伴宿祢家持鹿鳴歌二首○大原真人
今城傷惜寧樂故郷歌一首○大伴宿祢家持歌一首

額田王思近江天皇作歌一首 鏡王女作歌一首○弓
削皇子御歌一首七子○丹比真人歌一首名瀬○丹生
女王贈太宰帥大伴卿歌一首○笠縫女王歌一首六人
王之女母曰田形皇女○石川賀係女郎歌一首○賀茂女王歌一
首本又子長屋王之女母曰阿倍朝臣也○遠江守櫻井王奉 天皇歌一首
天皇賜報和御歌一首○笠女郎贈大伴宿祢家持歌一
首○山口女王賜大伴宿祢家持歌一首○湯原王贈娘
子歌一首○大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首
大伴坂上郎女和歌一首○巫部麻蘇娘子歌一首○大伴

田村大嬢與妹坂上大嬢歌二首林七村○坂上大嬢秋稻
獲贈大伴宿祢家持歌一首 大伴宿祢家持報贈歌一
首○又報脫著身衣贈家持歌一首六服○大伴宿祢家
持攀非時藤花并芽子黃葉二物贈坂上大嬢歌二首○
同家持贈坂上大嬢歌一首并短歌○同家持贈安倍女
郎秋歌一首○同家持後久邇京贈留寧樂宅坂上大嬢
歌一首○或者贈屋歌二首 尼作頭句并大伴宿祢家
持所訛尼續末句和一首本文上等字
和下歌字也

冬雜歌

舍人娘子雪歌一首○太上天皇御製歌一首○天皇御製歌
一首○太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首○同卿梅
歌一首○角朝臣廣辯雪梅歌一首辨本
不化○安倍朝臣奧

道雪歌一首○若櫻部朝臣君足雪歌一首○三野連石
守梅歌一首○巨勢朝臣宿奈麻呂雪歌一首○小治田
朝臣東麻呂雪歌一首○忌部首黑麻呂雪歌一首○紀
少鹿女郎梅歌一首○大伴宿祢家持雪梅歌一首○御
在西池邊肆宴歌一首○大伴坂上郎女歌一首○池田
廣津娘子梅歌一首○縣犬養娘子依梅發思哥一首○
大伴坂上郎女雪歌一首

冬相聞

三國真人足歌一首○大伴坂上郎女歌一首 和歌
一首○藤原后奉 天皇御歌一首○池田廣津娘子歌
一首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○紀少鹿女郎歌一
首○大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌一首○大伴宿祢

神奈備乃伊波瀬乃杜之喚子鳥痛莫鳴吾戀益
かみかみのいはせのありのよぞとどろいしくかききりびのし

いとせ大和ふるまを政ふか字後子杜毛利とぞ

駿河采女歌一首

沫雪香薄太禮雨零登見左右二流倍散波何物花其毛
あこゆきのばられふりもみるまでにながくへちるはなみのたまぞも
ほろのこのはばへちあへはれれりともりそききりも
もあゆべの極ふ教るがうるらん人とも又ちねのくれゆほま流
くしあり物の下一本之のま

尾張連歌二首 名關

春山之開乃字為黒雨春菜採妹之白紐見九四與四門
たるやまのさきのたをよのわのつむむいながくひりふりくしりも

字為黒
雨
加

万解八 六

翁の字為黒は平鳥里の語を春女をば花咲春遠里しりりといれま
され此あまをいむるこいりうとくもくや宣せは平鳥里の語を関崎の傍
字をよと一といり字後子端曲岸也又万又太平里嶼山豊貞山乃採妹
平利又井太平利もいふとくもくやのたをり山の語のたをいふは
北の宣せ況は後よへき

打靡春来良之山際遠木末乃開往見者

うちたなびくはるきうらやまのまのよきこわれのさみなるいれ
うららびく物約きすすののうを遊ばせしうを印する

中納言阿倍廣庭卿歌一首

去年春伊許自而植之吾屋外之若樹梅者花咲雨家里
こぞのはるいそけりあしわのれものわさきのらめはたをさきふけり
伊の長後こが根たごりうらり振動もくさるれ天香山之五百津真賢

木更根許士余許士而く

山部宿禰赤人歌四首

春野雨須美禮椽雨等来師吾曾野宇奈都可之美一夜宿
二来

はるのふもみれつみあゝわれぞのをなつりみじとよねふける

董つむハ衣摺人料うるゑハ和名抄董菜俗謂之董葵 須美 礼ハ身の内を

きでハゆがぞみとる

足比奇乃山櫻花日並而如是開有者甚感目夜裳

あじきのやまさくはなひわらへてかくさきいハいこいめや

ホチキノ山ノ桜ノ花ニ日ト並ニ開ク者ハ甚ク感目ノ夜裳

吾勢子雨今見常念之梅花其十方不所見雪乃零有者

わがせこみせんとおひらうめのもさるかにみえがゆきのふれを

万解八ヒ

檀標ニ

後明日者春菜将採跡標之野雨昨日毛今日毛雪波布利
管

あさよりつわのまつまんと志やぬまのたかきゆきはあつ

あさよりつわのまつまんと志やぬまのたかきゆきはあつ

草香山歌一首 古多記雄思條久佐加弁のころのふと河内國河内郡

忍照 難波宇過而 打靡 草香乃山宇暮晚雨

おしともたふをよまきりうらたむびくころのやまゆふぐれ

吾越来者 山毛世雨 咲有馬醉木乃不悪 君宇

わのこえくればやまもせまらんあじのいこいぬまきを

何時 往而早将見

いつのゆきくをやみむ

おしふるしちぶく椿のせよふにせし獲ま程ふ人、る研本に改は出さあり
ひの花のあつくりよと花きりふ、まゝいふよう男とてしては、あやうき
ど又男とて女とてしては、あやうき男とてしては、あやうき女とてしては、あやう
まよわけは、あやうき男とてしては、あやうき女とてしては、あやうき男とてしては、あやう
まよわけは、あやうき男とてしては、あやうき女とてしては、あやうき男とてしては、あやう

右一首依作者微不頭名字

櫻花歌一首并短歌

感孀等之挿頭乃多采爾遊士之藪之多采等敷座流國乃
ちをめぐらぶがきののめふみやいをがづののめとまきもせふこの
波多氏爾開爾鷄類櫻花能 丹穂日波母安奈何
はるりふまきふけるさくのほもの、あやひはあなつふ

遊士とては、あやうき男とてしては、あやうき女とてしては、あやうき男とてしては、あやう
まよわけは、あやうき男とてしては、あやうき女とてしては、あやうき男とてしては、あやう

の表^{カト}都^ツ波^ハ多^タ傳^テ、まゝ志^シ畏^ビ賀^ガ波^ハ多^タ傳^テ一^ニまゝてういゆべもてういふ
べし何一本尔^ニ能^クあまふはは妍^ニ哉^トあまふあやうき男とてしては、あやう
まよわけは、あやうき男とてしては、あやうき女とてしては、あやうき男とてしては、あやう

反調

去年之春相有之君雨戀雨手師櫻花者迎来良之母

このるるあつりきまよこいあてさくのほもの、あやひはあなつふ
まよわけは、あやうき男とてしては、あやうき女とてしては、あやうき男とてしては、あやう
まよわけは、あやうき男とてしては、あやうき女とてしては、あやうき男とてしては、あやう

右二首若宮年奠麻呂誦之

あやうき男とてしては、あやうき女とてしては、あやうき男とてしては、あやう

山部宿禰赤人歌一首

百濟野乃芽古枝爾待春跡居之鷺鳴雨鷄鵲鴨

くくぬのたまきのふるふよるさつこくしりうんしりたあまよけんも

くくくや大和十市郡まきこよらとくぐる済のあよあや

大伴坂上郎女柳歌二首

吾背兒我見良牟佐保道乃青柳字手折而谷裳見縁欲得

わがせこのみらんさほぢのあまやきさしんまうてどけんよんよしがし

くんハんくん縁欲得いろまがしけしれどすうしきんがいろや縁ハ

縁のほろろべしそまこよまがしけしれどすうしきんがいろや縁ハ

もあよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ

打上佐保能河原之青柳者今者春部登成雨鷄鵲鴨

うちのぼろろのののののあまやきさしんまうてどけんよんよしがし

ちのけの柳のもいちまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ

大伴宿禰三林梅歌一首 林ハ依の傍ハ三依ハ改出

霜雪毛未過者不思雨春日里雨梅花見都

きしゆきしもまゆもきぬばもあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ

あまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ

厚見王歌一首

河津鳴甘南備河雨蔭所見今哉聞良武山振乃花

かきづなむかみもむいづらよかげみえういもやさくらしむあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ

あまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ

大伴宿禰村上梅歌二首 後紀宝龜三年四月後立位下阿波守ともゆ

含有常言之梅我枝今且零四沫雪二相而将開可聞

あまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ

あまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ

霞立春日之里梅花山下風雨落許須莫湯目

かきふしんかきふしのうめはまゝあくのかせふちうくささゆらん
あはれちうがままつくやふしんちうべーおひるまひんち
さしりまていそきあはれふらふらほてあふまのれちうていふさふさ
大伴宿禰駿河麻呂歌一首

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

霞立春日里之梅花波奈爾將問常吾念奈久雨
かきふしんちうがままつくやふしんちうべーおひるまひんち

本は雨の物とむてやうてあはれいそきのゆんちうまていふさふさ
あふまのれちうていふさふさ
なふしんちうべーおひるまひんち

中臣朝臣武良自歌一首

時者今者春雨成跡三雪零遠山邊雨霞多奈婢久

石解八 十

とよいまはばるふなちぬくみゆきふるさうまのふかちうていふさ
雪の降るころうらぶの棚りくさへ

河邊朝臣東人歌一首

春雨乃敷布零雨高圓山能櫻者何如有良武

たむさのちうていふさふさのまのやまのいんちうていふさあ
ちうていふさふさのちうていふさふさ

大伴宿禰家持鸞歌一首

打霧之雪者零乍然為我二吾宅乃苑雨鸞鳴裳

うちきりゆきちうていふさふさのちうていふさふさ
ちうていふさふさのちうていふさふさ
ちうていふさふさのちうていふさふさ
和企幣、まゝ和我霸、あはれ、ちうていふさふさ

大蔵少輔丹比屋主真人歌一首

難波邊雨人之行禮波後居而春菜採兒乎見之悲也
かろあそぶよいのゆなればおくれあてわらまつむとをみるがかなうさ

人ハ子母の夫とてしゆゑにゆゑにゆけるふとつとて夫よ別居くひくまつ
はるるとんく情れむ也ハ後より法さるるうて例

丹比真人乙麻呂歌一首

平神護元年乙三位上多治真人乙麻呂後後五位下と久ゆ

霞立野上乃方雨行之可波鴛鳴都春雨成良思

かどみづのへのかろゆきさのばういれはまつたるとよなる
其のへいづつとあれ神のよん地るよあうど

高田女王歌一首

高安之女也

乙位一命とあり

山振之咲有野邊乃都保須美禮此春之雨雨盛忒里鷄利

やまぎのさきさのののぼろみれこのけらのおまげけうりちりや

まこれい合りさるるもれづがぞんれいさるる

大伴坂上郎女歌一首

風交雪者雖零實雨不成吾宅之梅宇花雨令落莫

かせまてゆきハふるもいふもなほぬやぎののうめをさるふちもれ

ニのうらや法句ハふる句句のゆえなふるハあふりつていふもれ

さるふぬ思はる人といひさるるさるるれといひ思はるあふもれ

あふハあふりてゆきもれりてさるる

大伴宿禰家持養鳩歌一首

目録に養と春とゆくとよとあり

春野雨安佐留鳩乃妻戀雨已我當守人雨令知管

たるのよあふるまじのつまごいよおのあふれとよいふもれつ

たれつハまじつとゆえんそハあふのゆよりく維のまてゆがせれあ

かきしゆをくきふかぎらよ他一人おきくきくきくきくきくきく

大伴坂上郎女歌一首

尋常聞者苦寸喚子鳥音奈都炊時庭成奴

よのねまきくくくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく

右一首天平四年三月一日佐保宅作

郎女の父大伴安麻呂

このくちり

春相聞

大伴宿禰家持贈坂上家之大嬢歌一首

吾屋外雨時之瞿麥何時毛花爾咲奈武名蘇經乍見武

万解八十二

之ヲ今
毛ニ誤

わがやどのまきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく

きくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく

大伴田村家之大嬢與妹坂上大嬢歌一首

第花拔淺第之原乃都保須美禮今盛有吾戀苦波

つたまぬくあきもむのづがぞいまいまはわらわちわづこきく

とこせやといん卒のく姉妹あまとい

大伴宿禰坂上郎女歌一首 郎女がくがねとさる傷なき

きくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく

情具伎物雨曾有雞類春霞多奈引時雨戀乃繁者

こころなきものおがあらるるたふかききくきくきくきくきく

きくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく

くきくきくきく

笠女郎贈大伴家持歌一首

水鳥之鴨乃羽色乃春山乃於保束無毛所念可聞

みづとりのかしのたのむらひたるやまのむらつのおもひゆるるも

一二の句はよ山の保るるといふ料も、まふはむらつとていふは

半一をよまむらつとていふは、まふはむらつとていふは、まふは

むらつとていふは、まふはむらつとていふは、まふはむらつと

むらつとていふは、まふはむらつとていふは、まふはむらつと

紀女郎歌一首

聞夜有者宇倍毛不來座梅花開月夜雨伊而麻左自常屋

やみなるべしきまきしりぬのたまきけるつくとまきしりとや

いであまのつとやハ、まきしりとや、つくとや、つくとや、つくとや

天平五年癸酉春閏三月笠朝臣金村贈入唐使歌一首

万解八 十三

并短歌

後紀天香四年八月以後四位下多治比真人廣成爲遣唐大使後五

玉手次 不懸時無

たまごとききのけぬときたかくいきのをよわりのきみはつせみの

命 悲 夕去者鶴之妻喚 難波方 三津埼後

みまがこみゆふされたつとまよふたふはつとみつのときよあ

大船雨 二椀繁貫 白浪乃 高荒海宇 島傳

おほつねよまがらまぬまきとらなみのたのきあるみよままつと

伊別往者 留有 吾者幣引 齊乍 公字者將往

いさこれゆがごまされるわれぬきとらひつとみよままつと

早還萬世

はやかへりませ

引取
誤往持
人保

娘子和歌一首

此花乃一與能裏波百種乃言持不勝而所折家良受也
このたまのひとよのうらみかきくものこころかかねてをられたるや

第一のの中を種くのもうとあらねばは塩どくも百種のうらみ
きりもよあわじやと也

厚見王贈久米女郎歌一首

屋戸在櫻花者今毛香聞松風疾地雨落良武

やどももさくらのをれいばまのりもまのせをやみつちふおつらむ

やどハ女あぢおとりの細句はらもあれは次のちと今もいふ在の上ふと扱せり

久米女郎報贈歌一首

世間毛常雨師不有者屋戸雨有櫻花乃不所比日可聞

よのちのしつねうあらねばやどふあるさくらのをまのちかひのり

不所ハ世のあふぬ多とてさうも多件にうちたるようつらと河

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首

戲奴變云和氣之為吾手毋須麻雨春野雨拔流茅花曾御食而

肥座

わけがのめこころていともふたるのいふぬけつちをぢめしてこもまじ

わけハ汝といふもさくらの女がれはあし一やうもあはれとてい
いつていささあふらうと戯奴とさくしよれるもさくしと一歌ハせし事は
ハ和氣をいさねとあひらうものあふさきほとさくしよ一いつハ合せらる
る一戯奴の不行変字及も改べしと契付いつてともまののともま
はささハ数ハのさねといつて下すもさくしよとていささあふらうと
をさくしよとていささあふらうとていささあふらうとていささあふら
やせしる人まればうとあふらうとていささあふらうとていささあふら

晝者咲夜者戀宿合歡木花君耳將見哉和氣佐倍爾見代

和名抄唐韵云檜和名祢布里乃木辨色立成云睡樹字鏡合歡樹檜が祢
夫利と訓を兼て事と人のいなりを兼てふと有りたせり君の一人やまての
解べうと君の吾の誤るるもさるし和氣の家持とをさし

右折攀合歡花并茅花贈也 茅花は三月合歡の花は六月にさく

されは時をさるるをさしは結せんとのよ後てくをさるるを結るるを

大伴家持贈和歌二首

吾君雨戲奴者戀良思給有茅花乎雖喫彌瘦爾夜須

わがきみまわけいさうたまいしるづをよとくどいやせよやち
此わけは我といふされども他女郎がまよひわがしを持てをけし物
しをくいとをまてそとけしものまし我といふと人彼方の物の詞を

うけくまふいしるの母も合歡を改まをさるるをさるるを
これとそがはけりく人の迷ふまをさるるをさるるを
吾妹子之形見乃合歡木者花耳爾咲而蓋實爾不成鴨
わがきみこのかみみのねむいちものいよさきくくくくみよわがかも

合歡のと花をれがくのめく女郎も花のまをさるるをさるるを

くくくくく

大伴家持贈坂上大嬢歌一首

春霞輕引山乃隔者妹爾不相而月曾經爾來

はるがけみたるびくやまのへたれはひりよあはてつまがへふける
妹は大嬢のひりよあはてつまのまを

右後久通京贈寧樂宅

夏雜歌

藤原夫人歌

明日香清御原宮御宇天皇之夫人也、字曰大原大刀自、即新田部皇子之母也。

第五百重娘生新田部皇子、此二人の中いづれ也。

霍公鳥痛莫鳴汝音乎五月玉雨相貫左右二

ほこきりいづこもなきはつらぐのたまふあへぬまがふ
れは四月の雨もあはれぬまがふとほしく
のむは後命倭まきりつらぐまがふよおまきりつらぐ
まがふまがふまがふまがふまがふまがふまがふまがふ
まがふまがふまがふまがふまがふまがふまがふまがふ

志貴皇子御歌一首

神名火乃磐瀬乃杜之霍公鳥毛無乃岳爾何時來將鳴
かみちのいづせのむらのほこきりいづこもなきはつらぐのたまふあへぬまがふ

万解ハ 十七

芽芽
二保

弓削皇子御歌一首

天武天皇の皇子

霍公鳥無流國爾毛去而師香其鳴音乎聞者辛苦母

ほこきりいづこもなきはつらぐのたまふあへぬまがふ
なつるはかくるまがふまがふまがふまがふまがふまがふ
小治田廣瀬王霍公鳥歌一首 天武紀十年三月詔廣瀬王、
今記帝紀持統紀六年二月為留守官、元正紀養老六年正月卒、
霍公鳥音聞小野乃秋風芽開禮也聲之乏寸
ほこきりいづこもなきはつらぐのたまふあへぬまがふ
けあはし、秋風まきりつらぐまがふまがふまがふまがふ
のむは後命倭まきりつらぐまがふまがふまがふまがふ

むしりていふにぬれやぬれもよ

沙彌サミ霍公鳥詠一首 三方沙弥もくし、姓とあせし

足引之山霍公鳥汝鳴者家有妹常所思

あじきのやまほりぎみながけびとるいかりおふちやゆ

括弧ありとあるちもべーののゆき

刀理宣トリスノ令歌一首

物部乃石瀨之杜乃霍公鳥今毛鳴奴山之常影雨

ものれいせのかりのほりぎみいまもなるあやめののげふ

おのれ物ぬちやゆわいぢけうい奴の下香のさあきんそうけはくよ

あふゆここ昔のさうしあつるれどもと信字うく本後のご本木の

まん紀のあひわいせのさかたけりもいふいもさうれごよしの本は

んるべーといひまればいれちちこげたとほいひのmant no hito たふい

奴下香
刀理

たわいりうい

山部宿禰赤人歌一首

戀之家婆形見爾將為跡吾屋戸爾殖之藤浪今開爾家里

こひけがらみよせんといわどまうあふむらのみいまけさふけ

まけがまきういへん家一か久もゆるけくはくとこ回道おはあつる

のあられどもものれえとせんといはさういんぬれどもまきやんくう

ちのちちちべー藤あいのるら麻のいん

式部大輔石上堅魚朝臣歌一首 後紀養老三年正月後六位下

よるも後五位下と授らるるしゆりてんゆ

霍公鳥來鳴令響宇乃花能共也來之登間麻思物字

ほりぎみちあひまほりさのちまのともあやいしんいそのそ

たはにいろやく大けのま姫女みちるあふやく堅魚朝臣は使きて

也一
也二
及三
乃四
誤五

菟野へりし時のあはれはふりもやうし、まのたふしはまよふも、
とらまへるべし、はは既に敦きと冥途のあはれは、
た、敦きと甲付ちるかのあはれは、
宇豆、
る乃、
来、
叶、
かの、
右神龜五年戊辰太宰帥大伴卿之妻大伴郎女遇病長
逝焉干時 勅使式部大輔石上朝臣堅魚遣太宰府弔
喪并贈物色其事既畢驛使及府諸卿大夫等共登記夷
城而望遊之日乃作此歌 記夷、和名州筑前遠賀郡木夜、

万解八十九

ハ夷と誤れ、契仲ミ下府形城遠、
此きの山とよあると、
よと、
ハ夷と誤れ、契仲ミ下府形城遠、
此きの山とよあると、
よと、

太宰帥大伴卿和歌一首

橘之花散里乃霍公鳥、
たちづるの木のちるさとのほ、

橘のちるさとのほ、

大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首

平二年十一月大伴坂上郎女、
載、

今毛可聞大城乃山、
いまもかみおききのやまのほ、

花のふ人のいづる大城の山ハ御堂那の四王寺止のふん城のふハ別
るよまをいふり我をこまきくまぬぐり中宮ハとももりのこまき
とちり

大伴坂上郎女霍公鳥歌一首

何哥毛幾許戀流霍公鳥鳴音聞者戀許曾益禮

なみのむこなくこまきほもぎらたやくこまきけはらひいふまのいれ
上の恋ハ歌をよまぬとて下の恋ハ人とまふて何あまかおろとま
るがまきげぞ人こしりまのまきと

小治田朝臣廣耳歌一首

後紀ヨ廣耳とく人とるり小治田廣千
とよるこれる後紀このか語多し耳のまのまき千とゆれははれ
こまきとまけいり

獨居而物念夕爾霍公鳥後此聞鳴渡心四有良思

いとやあてかのおひまひむらぎらとこゆまけらるるありあさ
こゆハこしりおぬいとまきとてかきりよまぬとるハつらとまぬとる

大伴家持霍公鳥歌一首

宇能花毛未開者霍公鳥佐保乃山邊来鳴今響

うのたまもいまぎらぬほぎらとてかきりよまぬとるハつらとまぬとる
さるぬむハまのふりよまゆり集申伝ま

大伴家持橘歌一首

吾屋前之花橘乃何時毛珠貫倍久其實成奈武

わがやぶのたまねちをものうけしたまふぬとてくそのみかるとまむ
むハまあむり

大伴家持晚蟬歌一首

隱耳居者鬱悒奈具左武登出立聞者来鳴日晚

こわりのみきれはらびげふもさびしきもきけはらびもさびしき

和名抄尔雅注云茅蜩一名蠶比久良之小青蟬也

大伴書持歌二首 家持の弟

我屋戸雨月押照有霍公鳥心有今夜来鳴今響

わがやどよつさおいてれアほもぎとていあさよひちかたのあせ

おつれと押きて照るるる星ナ一ち月山月押照れりりよあふ友の活またる何よあふ

我屋前乃花橘雨霍公鳥今社鳴米友雨相流時

わがやどのちまたちをれおちぎとていまもなのおいあふとて

我友よあふ時りりおれし情よまなげし

大伴清繩歌一首 繩一本綱也

皆人之待師宇能花雖落奈久霍公鳥吾將忘哉

万解ハ サ一

みちいとのまらしうのなまらちぬとちかひもぎとてわれもれぬ

おあまげはらぎとていあさよひちかたのあせと持てあふとて

おちもあふもがぬれぬほしおれとておれぬ

庵君諸立歌一首

吾背子之屋戸乃橘花子吉美鳴霍公鳥見曾吾来之

わがせこのやどのちかたをれおちあふほもぎとてみまがわご

おちの情とめりてあふとておれぬ

大伴坂上郎女歌一首

霍公鳥痛莫鳴獨居而寐乃不所宿聞者苦毛

わがぎとていあさよひちかたのあせぬまけはらび

大伴家持唐棣花歌一首

夏儲而開有波禰受久方乃雨打零者將移香

なつまけりもきたるもねぞいしむかしのあつらふらぶらうつろひまの

さねぞいふちよ改みいり

大伴家持恨霍公鳥晚喧歌二首

吾屋前之花橘乎霍公鳥来不喧地爾今落常香

わがやどのをわらふらぶらふもほろぎもきまよのぶららねおもゝかろんこの

新このまのぬるよ橘のあそち〜せん〜り〜

霍公鳥不念有寸木晚乃如此成左右爾奈何不来喧

ほろぎもきまよいもあきこのめこれのかくなるまでふたよこのまよのぬ

このれまのあき時きかよああむもまよらげんとはもはなうま〜

大伴家持權霍公鳥歌一首

何處者鳴毛思仁家武霍公鳥吾家乃里爾今日耳曾鳴

いづよなき〜い〜く〜し〜ん〜き〜し〜た〜た〜く〜の〜ま〜ぞ〜た〜ん〜

過つ過
二候

いづよなきよそふは〜り〜た〜ら〜い〜ど〜ろ〜ろ〜は〜を〜あ〜つ〜ん〜ま〜の〜ら〜ろ〜ろ
くまもゆ〜ん

大伴家持惜橘花歌一首

吾屋前之花橘者落過而珠爾可貫實爾成二家利

わがやどのをわらふらぶらふもほろぎもきまよのぶららねおもゝかろんこの

大伴家持霍公鳥歌一首

霍公鳥雖待不来喧蒲草玉爾貫日乎未遠美香

ほろぎもきまよいもあきこのめこれのかくなるまでふたよこのまよのぬ

蒲の上草のまよとむらせまひかひあむん〜らう〜五月のむら〜

大伴家持雨日間霍公鳥喧歌一首

宇乃花能過者惜香霍公鳥雨間毛不置後此間喧渡

うのやののまよぎまよ〜みのほろぎもきまよあま〜し〜の〜あ〜い〜こ〜の〜ま〜た〜い〜ん〜

うのふの垂のこんぐけりさうのの降白ふいしをぞゆたせり

橘歌一首 遊行女婦

和名抄云楊氏漢語抄云遊行女婦 和名守加礼女 又云阿曾比

君家乃花橘者成雨家利花乃有時雨相益物乎

きみぶらののたまはたらけなばやちふなやをたるとたまはあはまのそ

きふらふあはまのそとよめてはとよまめりて

大伴村上橘歌一首

吾屋前乃花橘乎霍公鳥来鳴令動而本雨令散都

わづやどののちまらふら橘のそはほらむきとよめてかたけち

かたけの木ののこんとよめてはとよまめりて

大伴家持霍公鳥歌二首

夏山之木末乃繁爾霍公鳥鳴響奈流聲之遙佐

万解八 三三

なつやまのこねれのきふほらむきとよめてかたけち

ゆれいご繁さ指の人氣遠まよりてきとよめてはとよまめりて

足引乃許乃間立八十一霍公鳥如此聞始而後將戀可聞

あびきのこのまたちがけむきとよめてかたけち

あびきのの地白りく山のまゆせりてきとよめてはとよまめりて

のこをほるまふれどはむけり谷具久とちりてよとほらむけり

使の係へ神代紀漏とくま川八十一とちりてよとほらむけり

大伴家持石作花歌一首

吾屋前之瞿麥乃花盛有手折而一目今見兒毛我母

わづやどののちまらふら橘のそはほらむきとよめてかたけち

和名抄云瞿麥一名大薊 和名奈天之古 一云止古奈豆 兒ハ女をり

雨ノ下社
宇ヲ殿

どろろとたつたふととる人よあはれぬとて
もぐりてくつくつといふまじき物より初人乎一本尊花を

小治田朝臣廣耳歌一首

霍公鳥鳴峯乃上能宇乃花之歌事有哉君之不来益

ほらうきむらたけののりのはなむらたけのあはれむらたけはむらたけ

とほうきむらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけ

むらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけ

むらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけ

大伴坂上郎女歌一首

五月之花橘宇為君珠雨貫零卷惜美

さつこのちがひももはるごとくまふまふはむらたけはむらたけはむらたけ

むらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけはむらたけ

西解ハ
廿五

下一本社の宇ヲ殿

紀朝臣豐河歌一首

吾妹兒之家乃垣内乃佐由理花由利登云者不謂云二似

わがまのいのちの垣の内乃佐由理花由利登云者不謂云二似

垣の内乃佐由理花由利登云者不謂云二似

佐由理花由利登云者不謂云二似

花由利登云者不謂云二似

云者不謂云二似

不謂云二似

似

不許云二似

不許云二似

不許云二似

不許云二似

不許云二似

不許云二似

けしうもいた、その解くまきあらん、いづくのぼくとまつ

高安歌一首 第三高安大島といふも

暇無五月宇尚雨、吾妹兒我花橘乎、不見可将過
 いまのよきものきまつてふ、わさつこびのまらちらふと、ふたりのかたはらん

梅の何もの、五月とちういふ、いづれかて、こころんらんらん

大神女郎贈大伴家持歌一首

霍公鳥鳴之登時、君之家雨往跡、追者将至鴨

ほいききとたう、いまもも、まみのがい、ゆげわい、いづれらんも
 君の待つんと、わしひく、神と、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ
 き、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ
 ぶきわのれちうた

大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌一首

万解八 廿六

古
二
歌

古郷之奈良思之岳能、霍公鳥言生遣之、何如告寸ハ

あなりのたの、のたの、ほいきき、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ
 を、のまかむ、拾穂、古と、故まゆ

大伴家持攀橘花贈坂上大嬢歌一首并短歌

伊加登伊可等有、吾屋前雨百枝刺、於布流橘、玉雨貫

いのもいと、あまの、わら、とよ、か、さ、ら、た、ち、ま、た、ま、あ、ぬ、く、

五月乎近美、安要奴我雨、花咲爾家里、朝雨食爾出見、毎

さつ、い、ち、の、み、あ、え、ぬ、く、ふ、た、ち、あ、ま、け、い、あ、ま、の、く、ま、い、で、ま、か、い、ふ、
 氣緒雨、吾念妹雨、銅鏡、清、月夜雨、直一眼

いまのそ、わづ、い、い、あ、ま、か、み、ま、ら、つ、く、よ、た、ら、い、ん、

令親麻而雨波、落許須奈、由米登云、管幾許、吾守物乎、
 みせんま、ご、さ、ら、い、な、お、く、い、つ、く、た、く、わ、つ、わ、い、の、と、

宇禮多伎也志許霍公鳥曉之裏悲雨

雖追雖追

うれしきや志ほりまじとあはれしのつらなるまほしくおぼし
尚來鳴而 徒 地雨令散者為便乎奈美攀而手折

都見末世五妹兒

つみませわぎやこ

いものこハ枯のあれさくわさといふありきしむれとるんといひ
有八居見室まきといふらへは語さうとべし我人言伊追之可等持の得れ
此言とかやまはる下の伊の祈祐と有はほわらん其の候といつらへは
よらうれ考べし百枝さハ水枝さといひまきすの同く枝のさへ
あえぬらふハ幸十ハ枯とよめるもあま由流実ハまふぬきつれ
幸十、杖下ハみまの花の阿要奴蟹とさくけがハ満る例くおた人ハ

万解ハサセ

物の熱せるとあえぬといふらへも五月をこく既熟ぬらふといひ

花よのけと茶ぬらまきかへんぬべしかぶの何がわら同くあまきけ
こちもくま改といふ食ハ借字とてまきとていふまきまき後地
河神代紀白銅鏡とまきみのねみし河これ河後とていふまきまき
まきまきと改河とていふまきまきと改河とていふまきまき
河とて改河とていふまきまきと改河とていふまきまき
まきまきと改河とていふまきまきと改河とていふまきまき
まきまきと改河とていふまきまきと改河とていふまきまき

反歌

望降清月夜雨吾妹兒雨令觀常念之屋前之橘

かみらるるまきまきといふまきまきと改河とていふまきまき
まきまきと改河とていふまきまきと改河とていふまきまき

妹之見而後毛將鳴霍公鳥花橘乎地雨落津

いもぎんぐのちしたあまのんほあきまはたはるまじもよむつ

二つのむけしきまのなまらん花橘ののこし

大伴家持贈紀郎女作歌一首

目録作のまじきとよし

瞿麥者咲而落去常人者雖言吾標之野乃花爾有目八方

たぐいこふまきくちらぬいりいりわづあーぬのまらあふや

半三古伴後河原る梅のまらあふちあふらんかたてふまぢゆし

めあふしをいづれをわらせんそいこをいふのうたれらんかたて

まらこつゆづりあふあふで他人のうんとりまらんかたてあふ

よあふるあふあふ

秋雜歌

岡本天皇御製歌一首

斜明天皇

百解八 廿八

暮去者小倉乃山雨鳴鹿之今夜波不鳴寐宿家良思母

ゆまればをさるのやまふたうまのこよいなまのまいねふけし

半九より麻のそと卧鹿のそと雄畧天皇の御製とすたはた

或本云岡本天皇御製不審正指因以思載とす小倉山ハ大和

九毛翁子秋田の山の流上の小薮旅あふあふる山あふ

大津皇子御歌一首

經毛無緯毛不定未通女等之織黄葉雨霜莫寒

たてしなぐわきしきむめむめらむらむらむらむらむらむらむら

かみらまきとやうしゆふとくそあふらふ織毛とよみあふる心懐凡

藤よけこ山機霜杼織葉錦と作あふるよ同とこ

穗積皇子御歌二首

今朝之旦聞雁之鳴聞都春日山黄葉家良思吾情痛之

女ヲ子ニ
誤ラ下ニ
不活本
見不ニ作

けさのあまのかがりぬきしがさきやまのみちよるるわがこころ

秋芽子者可咲有良之吾屋戸之淺茅之花乃散去見者
あきいぢいばなはなをばらばらとちりぬるるんれ
つぎのあまのそよ枝よゆく初枝よなるもの

但馬皇女御歌一首 一書云子部王作
事繁里雨不住者今朝鳴之雁雨副而去益物乎

一云國爾不有者

山部王惜秋葉歌一首 此王天武天皇の御歌也

桓武天皇の御歌也 王の御歌也 けし山部王の御歌也

秋山雨黄反木葉乃移去者更哉秋乎欲見世武
あきやまふたみづのたのうつりなむもあきやまのやせん

あきやまの黄葉とちり反木葉の首文もさしつるはあきやまの曲し
のこころあれはゆつらつらとさしつるはあきやまの曲し

長屋王歌一首

味酒三輪乃祝之山照秋乃黄葉散莫惜毛

あまのけしみのたのうつりなむもあきやまのやせん
あまのけしみのたのうつりなむもあきやまのやせん
あまのけしみのたのうつりなむもあきやまのやせん
あまのけしみのたのうつりなむもあきやまのやせん

一カ解ハ 九

山上臣憶良七夕歌十二首

天漢相向立而吾戀之君来益奈利紐解設奈

あまのがはあひむきこもてわがこひまきみこもせむじりたまけさ

一云向河

織女の心よもる心解まけさハ解まけさハ

右養老八年七月七日應令

後紀は元正天皇養老七年九月神

龜出八年二月改号神龜より、まれば、ハ七年の遷るべし

久方之漢瀨雨船渡而今夜可君之我許来益武

いさかしのあまののいせふねうけこよひのまきみわがのこひたまけさ

をこちよゆわがこひまけさのがらふ甲くまをうとあまのこひたまけさ

よハ天字ありく瀨のうもるこまのこひあまののこひたまけさ

右神龜元年七月七日夜左大臣家

長屋王のまへ

牽牛者織女等

天地之

別時由

伊奈宇之呂河

いさかしたまをこもてわがこひたまけさのがらふ甲くまをうとあまのこひたまけさ

向立

意空

不安久雨

嘆空

不安久雨

むきこもてわがこひたまけさのがらふ甲くまをうとあまのこひたまけさ

青浪雨

望者多要奴

白雲雨

滯者盡奴

如是耳也

あまをこもてわがこひたまけさのがらふ甲くまをうとあまのこひたまけさ

伊伎都积乎良牟如是耳也

いさかづきこもてわがこひたまけさのがらふ甲くまをうとあまのこひたまけさ

毛賀茂玉纏之真可伊毛我母

毛何毛

朝奈藝雨伊可伎

もかたたまをこもてわがこひたまけさのがらふ甲くまをうとあまのこひたまけさ

渡夕臨雨

倍余毛

伊許藝渡久方之天河原雨

天飛也

わがこひたまけさ

いさかたのあまのこひたまけさ

いさかたのあまのこひたまけさ

領中可多思吉真玉手乃玉手指更餘宿毛寐而師可聞云

ひれかへし伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

而師加伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

伊毛左祿秋爾安良受登母一云秋不待登毛

百解ハ

りぬていふるちかきもまきか宿のてのこ二句ねいふも一餘のよハ一事の一事
ちかきもまきか宿のてのこ二句ねいふも一餘のよハ一事の一事

反歌

風雲者二岸雨可欲倍杼母吾遠孀之一云波事曾不通

かせくハ云々のきよハかかるとハわがづまのこころがよさぬ

風しやとくとくハ事ハ言ハ一本の波とつまハ愛妻のこと

多夫手二毛投越都倍伎天漢故太而禮婆可母安麻多須

辨奈吉

たぎあひだびしつてあまのいははははそれバヨあまこもくたのま

たぎあひだびしつてあまのいははははそれバヨあまこもくたのま

右天平元年七月七日夜憶良仰觀天河一家作

天河の下作の子あつこしの仲の指人云

秋風之吹雨之日後何時可登吾待戀之君曾来座流

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

天漢伊刀河浪者多多禰杼母伺候難之近此瀬宇

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

袖振者見毛可波之都倍久雖近度為便無秋西安良禰波

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

玉蜻蛉髪髻所見而别去者毛等奈也戀牟相時麻而波

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

右天平二年七月八日帥家集會

牽牛之迎孀船已藝出良之漢原雨露之立波

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

霞立天河原雨待君登伊往還程雨裳欄所沾

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

天河浮津之浪音佐和久奈里吾待君思舟出為良之母

あまのがほのくさむしひまゝにせむらふまもちひしーちんぐくちんぐ

天上の... 神代紀天浮橋... 乃... 万代の...
天の... 神代紀天浮橋... 乃... 万代の...

太宰諸卿大夫并官人等宴筑前國蘆城驛家歌二首

娘部思秋芽子交蘆城野今日乎始而萬代爾將見

をみだへーあきはほまゐるあまのぬけとをやくよのつよみむ

珠匣葦木乃河乎今日見者迄萬代將忘八方

たまぐげあまのづくとたふれがよるづよまてよわらうえめや

わくが穂のあまのせあまの何から蘆城の海あまうとくゆ

右二首作者未詳

笠朝臣金村伊香山作歌二首

お名抄に伊香山郡、神名帳

伊香郡伊香具神社、其三二越おへト、時のあま、よるまのあま

草枕客行人毛往觸者爾保比奴倍久毛開流芽子香聞

万解ハ 卅三

とまよくちひゆいしゆまふれがふゆいぬぐくしやけるまきいし

まよくちひゆいしゆまふれがふゆいぬぐくしやけるまきいし

伊香山野邊爾開有芽子見者公之家有尾花之所念

いのごやまぬべよまきいしをみだへいへかふるををりねしゆゆ

たらのあへまてやゆいしゆまふれ

石川朝臣老夫歌一首

後紀文武天皇二年秋七月直廣肆石川朝

臣小老為美濃守、ゆ此小老のまよや

娘部志秋芽子折禮玉梓乃道去叢跡為乞兒

をみだへーあきはほたふれがよるづよまてよわらうえめや

卅の上手のまをたふせーうままはれがゆいしゆまふれ

藤原宇合卿歌一首

我背子乎何時曾且今登待苗爾於毛也者將見秋風吹

わがせこよひのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
七ツのちるらん、あはれはむねのこころも十八枚も枝目都良之とてこころい
よらんらん、さくせくとをへるにまことまことわらわらわらせよあはれい
せこがいつまもさうぞ、今すまのうらむきよ、あはれはむねもあはれみらん
空をハハハハのほほ、せのほほ、あはれはむねもあはれみらん
あはれはむねのほほ、せのほほ、

縁達師調一首 信ちるべし

暮相而朝面羞隠野乃芽子者散去寸黄葉早續也

あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ
あはれはむねのしづかにあはれはむねもあはれみらんあまのせのよ

あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ

山上臣憶良詠秋野花二首 秋の下の日録と秋のまろ

秋野雨咲有花乎指折可伎數者七種花 其一

あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ

二ツケ山

芽之花 芋花 葛花 瞿麥之花 姫部志 又藤袴 朝顔之花 其二
はぎのたまをばあまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ

あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ
あまのせのよ

こゝろはまきさうりなれしよあふらばに
権花をいひまはつれももろくも
まきさうりなれしよあふらばに
権花をいひまはつれももろくも

天皇御製歌二首 聖武天皇

秋田乃穗田予鴈之鳴聞雨夜之穗杼呂雨毛鳴渡可聞

あきのほむのほむのねやいかによのねはるみよまきさうりなれし

後より田を刈て穂よりのみよまきさうりなれしよあふらばに

わが心とよまきさうりなれしよあふらばに

今朝乃旦開鴈之鳴寒聞之奈倍野邊能浅茅曾色付丹来

けさのあけがかりねまきさうりなれしよあふらばに

あふらばに

太宰帥大伴卿歌二首

吾岳雨掉牡鹿来鳴先芽之花孀問雨来鳴掉牡鹿

万解八 卅五

わが岳のふきさうりなれしよあふらばに

まきさうりなれしよあふらばに

まきさうりなれしよあふらばに

まきさうり

吾岳之秋芽花風平痛可落成将见人裳欲得

わが岳のあきはほのまがせとていそちづくたあぬんいよまき

三原王歌一首 倭紀勝宝四年七月甲寅中務卿後三位三原王薨

一品贈大政大臣舍人親王之子也

秋露者移雨有家里水鳥乃青羽乃山能色付見者

あきのつゆうつなまきさうりなれしよあふらばに

四時より青柳蒸柳花柳はまきさうりなれしよあふらばに

まきさうりなれしよあふらばに

湯原王七夕歌二首

牽牛之念座良武從情見吾辛苦夜之更降去者
 ひかりのおひしまゝんこらゆしみるはたけしよのうけゆけむ

織女之袖續三更之五更者河瀬之鶴者不鳴友吉

たきづのそでづくよひのあときかたせのたづなはつのだてうしよ
 種下は種下うしよあれりーりうさく

市原王七夕歌一首

妹許登吾去道乃河有者附目緘結跡夜更降家類

いかりのわづらひみちのかがりあれはいとあつむむさげふけふらる

はらの句はなまこりてあへ一本目と匡く一本結のなまこりてハ階ハ
 脚のぼろろ肺田成法歌とあゆひつるこりんて空物紀よたまとの

おのひろせうわるとんて阿庸比拖豆矩梨拳始豆矩羅符母
 孝十七のわくこの安由はま豆久利をよみく川後くらんとりそゆ

ひとそくつてこりよむさのれは固とちよむそそささるべーたづららら
 ゆるよあふりてつらふた紀のあよこつてらふりまらやあてーうさそら

成法はのちよも〜川へされ雄果紀のあや阿遠比那陀復暮ららら
 いららわららら〜正ものあうさ仲いら

藤原朝臣八束歌一首

棹四香能芽二貫置有露之白珠相佐和仁誰入可毛手爾
 将卷知布

衛門大尉大伴宿禰稻公歌一首

鐘禮能雨無間零者三笠山木末歷色附爾家里

志づればあまきりくふればみよのあまきりくふればあまきりくふればあまきりく

大和のとせとん

大伴家持和歌一首

皇之御笠乃山能黄葉今日之鐘禮雨散香過奈牟

おほまきのみのみのやまのきんばらひらの志づればあまきりくふればあまきりく

あまきりく

安貴王歌一首

秋立而幾日毛不有者此宿流朝開之風者手本寒母

あき立ちしといふ日毛あなぬこのねぬあまのせいたかひも

あまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひも

四解八 廿九

壊ヲ壊
ニ誤

秋田新借廬毛未壊者雁鳴寒霜毛置奴我二

忌部首黒麻呂歌一首

あきしのかちやもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも

あまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひも

あまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひも

あまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひも

故郷豊浦寺之尼私房宴歌三首

聖田、豊浦、坂田とも、光仁紀重孫、葛城寺乃前在也、豊浦寺乃西在也、

豊浦へ推古天皇の都より、而、此時の都をいふれば、藤原の宮のことと

故アいつ

御ヲ御
ニ誤

明日香河逝回岳之秋芽子者今日零雨落香過奈牟

あまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひもあまのせいたかひも

挿入
=誤

右一首丹比真人國人
 鷓鳴古郷之秋芽子乎思人共相見都流可聞
うづらわう・ふりふーはとのあきををいひてもひをちあひみつるべし
 うづらわうの聲も、とくくらひはつて人とたるとも
 秋芽子者盛過乎徒爾頭刺不挿遷去牟跡哉
あきををいひはるるはらばるるをいづらふかきまよきやかくらんとわ
 挿と不挿をいれり一わらもくはつ

右二首沙彌尼等

大伴坂上郎女跡見田庄作歌三首

万解八 四十

月ツ目
=誤

妹目字始見之埜乃秋芽子者此月其呂波落許須莫湯目
いでめとみそのさきこのあきををいひはらばるるはらばるるゆめ
 始に跡の後ちるる一埜は丘辺にあはるるはらばるるちるるのさき
 ては挿と不挿をいれり一わらもくはつ
 此の下目の字ちるる月とみそのさきとをいひはらばるるはらばるるはらばるる
 汝さきのさきとをいひはらばるるはらばるるはらばるるはらばるるはらばるる
 のさきはつて田庄作歌と云ふ
 吉名張乃猪養山爾伏鹿之孀呼音半間之登聞思佐
よみやまののさきのさきこのあきををいひはらばるるはらばるるはらばるるはらばるるはらばるる
 吉と不吉をいれりよみやまののさきのさきこのあきををいひはらばるるはらばるるはらばるるはらばるる

吉ヲ古
=誤

巫部麻籬娘孀歌一首

誰聞都後此聞鳴渡鴈鳴乃孀呼音乃之知左寸
たれきつてゆりまわりのかたのわめしまのよととるる

誰はつづる之知左寸はつづるべしすとまやみきのつあは月くまのまひ
くまはまれまをささき足在可くさうがほねるまんとくまのあつるのいづれ
神が都に法の候よくたれまけとるんといつそはす都まのあつる

大伴家持和歌一首

聞津哉登妹之問勢流鴈鳴者真毛遠雲隱奈利
きつやとりのよとけせむかやのねはまをささきとくくくまのあつる

日置長枝娘子歌一首

秋付者尾花我上爾置露乃應消毛吾者所念香聞
あきづけはなをまのうへふちくつゆのけむくもわをいひかゆるま

秋づけはハ秋付日夕附日のつくま同く、林は附えよハ消るといふん序の

大伴家持和歌一首

吾屋戸乃一村芽子乎念兒爾不令見殆令散都類香聞
わがやどのいひしらまをいひまをいひまをいひまをいひまをいひまをいひ

まをいひまをいひまをいひまをいひまをいひまをいひまをいひまをいひ

大伴家持秋歌四首

久堅之雨間毛不置雲隱鳴曾去奈流早田鴈之哭
ひさかたのあまももあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつて

ひさかたのあまももあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつて

雲隱鳴奈流鴈乃去而將居秋田之穗立繁之所念
くまのあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつて

くまのあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつてくまのあつて

まきいふとより

雨隠情鬱悒出見者春日山者色付二家利

あまのつらさうらひせきいづれかもののかさばいづりびきふけぬ

あまのつらさうらひせきいづれかもののかさばいづりびきふけぬ

雨晴而清照有此月夜又更而雲勿田菜引

あめをれてきよしくてあつきのつよまほしうらふてまればあまの

あまのつらさうらひせきいづれかもののかさばいづりびきふけぬ

右四首天平八年丙子秋九月作

藤原朝臣八束歌二首

此間在而春日也何處雨障出而不行者戀乍曾乎流

こゝにあつてかきつやいづかあまつみいづゆのぬばこいつぞよ

あまのつらさうらひせきいづれかもののかさばいづりびきふけぬ

百解八 四十二

つらさうらひせきいづれかもののかさばいづりびきふけぬ

春日野雨鐘禮零所見明日後者黄葉頭刺年高園乃山

かすのあふまどれつさみゆあはゆるはりみぢかきんたのあとのやま

者一本夜子也

大伴家持白露歌一首

吾屋戸乃草花上之白露乎不令消而玉雨貫物雨毛我

わづらのをだちをのののさうつゆとけいびきわたまよわいのあまの

あまのつらさうらひせきいづれかもののかさばいづりびきふけぬ

あまのつらさうらひせきいづれかもののかさばいづりびきふけぬ

大伴利上歌一首 利上村の孫もまゝし村上ハ改り也

秋之雨雨所沾乍居者雖賤吾妹之屋戸志所念香聞

あきのあめふれつさればいやけぢきいゝもどしほゆゑの

いしけいはいやんげんをいそはけりてよりのかきくべしきつらばあまのつらき味をか
とハ別あまのあまのつらきとさし、さうしてハ紙神の日記もさうか

右大臣橘家宴歌七首

雲上雨鳴奈流鴈之雖遠君將相跡手回来津

くこのうへはつらくなるかちのこむげんまふよあまんとたたりはあまき

一二の句は遠しつらん岸のこたかりやうはまりりのこと

雲上雨鳴都流鴈乃寒苗芽子乃下葉者黃髮可毛

くものうへはつらまるかちのこむげんまふよあまのささぎのささぎもみちつるか

苗ハ信字のささぎ

右二首 くらげのんまをささぎと為せり

此岳雨小牡鹿履起宇加泥良比可聞可開為良久君故雨

許曾

このまのいさぎのまおこしむねらひかひのささぎもみちつるか

卷十 類良布政 足山 吉のわりろくともあまのうらひねらふとゆへはの句は

字のまへ一室もささぎの考よ万智在居良久まへ一可守とて保れんと下の

聞と又開も保り居と為保れんとま十三もあまのささぎのささぎもみちつるか

まはのささぎもみちつるかちのこむげんまふよあまのささぎのささぎもみちつるか

けし預せしちまへ一 卷六 天平十年八月廿日宴右大臣橘家等とてけし長門守

巨曾倍對馬朝臣のあまのささぎもみちつるか

右一首長門守巨曾倍朝臣津島

秋野之草花我未半押靡而来之久毛知久相流君可聞

あきののれいそあまのささぎもみちつるかちのこむげんまふよあまのささぎの

あまのささぎもみちつるかちのこむげんまふよあまのささぎのささぎもみちつるか

あまのささぎ

今朝鳴而行之鴈鳴寒可聞此野乃淺茅色付雨家類

けさあきてゆきかりあまひみよこのぬのあをまらるるあまき

原の群のなきうべしをうらみ此のあまのちのそけとさればしりてはけ

まこりまきとけきるる上のさむみよこのかの後びととまもり

右二首阿倍朝臣蟲麻呂

朝扉開而物念時雨白露乃置有秋芽子所見喚鷄本名

あさあけくものおもひたまふまきつゆのおわくるあきとまきつたま

能とまきとまきつゆのうらみくつとやいしくん喚大追馬とまきつたま

まきつたま

棹牡鹿之来立鳴野之秋芽子者露霜負而落去之物字

ささののまきつたまのぬのあきとまきつゆのうらみくつとやいしくん喚

まきつたまのぬのあきとまきつゆのうらみくつとやいしくん喚

右二首文忌寸馬養

後紀靈龜元年四月癸丑詔壬申年切臣と文忌

寸孫麻呂息正七位下馬養と等十人賜田各有差ととてわたり

天平十年戊寅秋八月二十日

これいよまてん

橘朝臣奈良麻呂結集宴歌十一首

後紀天平勝室三年橘宿祢諸

兄賜朝臣姓とんゆをいれよれよれ朝臣とては宿祢を改べ

不手折而落者惜常我念之秋黃葉字挿頭鶴鴨

たささぎてちりるばるとわのまきあきのまきとまきつたま

まきとまきとまきつゆのうらみくつとやいしくん喚大追馬とまきつたま

まきつたま

布希

布將見人爾令見跡黃葉字手折曾我來師雨零久仁

めつらまきいよまきとまきつゆのうらみくつとやいしくん喚

布將見えまきとまきつゆのうらみくつとやいしくん喚

布希

川へし、幸十かつ人保りまきとや 希将見、卷十一希将見君と云へし、
ぞ、幸十二大玉の志ややくあまの意えられはとれし、
希将見、卷十一希将見君と云へし、
希将見、卷十一希将見君と云へし、

右二首橘朝臣奈良麻呂 朝臣と宿祢と改へ

黄葉字、今落鐘禮雨所沾而來而君之黄葉字、挿頭鶴鴨

かみぢをとりしとて、なぬれまきと、きみあひみちと、かざりつるがし

それよあれつ、けしきと、あまの國のまきと、かざりつるがし

右一首久米女王 後元天平十七年正月無位より後五位下と授と云へ

布将見跡、吾念君者、秋山始黄葉雨、似許曾有家禮

とつと、わのこまきま、あきやまのまつりな、よほてこそあつたれ

よまいつるあ、くれも布希の信、おりのら、あまのこまきま、よほてこそあつたれ

こまきま

万解八 四十五

布希

右一首長忌寸娘 長忌守氏の娘と云へ

平山乃、峯之黄葉、取者落鐘禮、能雨師無間零、良志

かゝるやまのみねの、かみぢと、とれば、ちる志、これのあ、まきと、よほてこそあつたれ

まれの、あまのこまきま、よほてこそあつたれ

右一首内舍人縣大養宿禰吉男 後元宝字二年八月正六位上

より後五位下と授と云へ

黄葉字、落卷惜見、手折来而、今夜挿頭津、何物可将念

かみぢをとりしとて、なぬれまきと、きみあひみちと、かざりつるがし

右一首縣大養宿禰持男

足引乃、山之黄葉、今夜毛加、浮去良武、山河之瀨雨

あひきの、やまの、かみぢと、こまきま、よほてこそあつたれ

もうのこまきま

右一首大伴宿禰書持

平山宇令丹黄葉手折来而今夜挿頭都落者雖落
ならやまをいりてみちをたよきうてこひのさしつららみちを

右一首之手代人名

ミテシロノヒト十

之ハ三ノ徳ノ聖武紀大倭御手代連麻呂ト

露霜雨逢有黄葉手手折来而妹挿頭都後落十方

つゆふあへるみちをたよきうていさかきつのもちあつるとも

妹は信ねるちるべしとらり
ははるるこいよこいよとあふまを妹のま今夜あつるとも今とあつる夜と

右一首秦許遍麻呂

十月鐘禮爾相有黄葉乃吹者將落風之隨

御ヲ郷ニ誤

かみちぎきとれはあへるみちをのふをちりなんがせのあふ

髪切あつるやくだののこまはうもまはるのこまはうもまはる

右一首大伴宿禰池主

黄葉乃過麻久惜美思共遊今夜者不開毛有奴香

かみちぎきのきまをみちをちあそぶこひのあけあぬの

こまはうもまはるのこまはうもまはるのこまはうもまはる

右一首内舍人大伴宿禰家持

以前冬十月十七日集於右大臣橘卿之舊宅宴飲也

大伴坂上郎女竹田庄作歌二首 此より家持至姑坂上郎女竹田

庄作弄とあり

然不有五百代小田年折亂田廬爾居者京師所念

さしあはぬいりるをかりみちをたよきうていさかきつのもちあつるとも

ていつか...
向ふと...
大伴宿禰家持鹿鳴歌二首

大伴宿禰家持鹿鳴歌二首

山妣姑乃相響左右妻戀爾鹿鳴山邊雨獨耳為手
やまびこのあひとあひままでつまごひよかたぐやまふよひとらこのあひ

頃者之朝開雨間者足日本菟山乎令響狹尾牡鹿鳴哭
このごろのあけまきげあひひきのやまをさよそ...
哭喪のうまのほちうへ

右二首天平十五年癸未八月十六日作

大原真人今城傷惜寧樂故郷歌一首
後紀宝字元年五月正六

位上大原真人今木授後五位下同六月治部少輔...
万解八 四十一

御ヲ
誤

葉ヲ
誤

秋去者春日山之黄葉見流寧樂乃京師乃荒良久惜毛
あきされがはものやまのみみぢるるわりのみやこのあふらくをうも
久迹の整へうつされはまんとあひやまてよめらるるあふらくあをを延こ

大伴宿禰家持歌一首

高圓之野邊乃秋芽子比日之曉露雨開魚可聞

たのまののべのあきをさごこのころのあひまきしめちたはよけんも

魚とが葉も信れと一ちよよるるぬつ

秋相聞

額田王思近江天皇作歌一首

君待跡吾戀居者我屋戸乃簾令動秋之風吹

きまよつとわごひとれがわものきまされうごのあきののせみ

鏡王女作歌一首

天皇賜報和御歌一首

皇武天皇

大乃浦之其長濱雨縁流浪寛公宇念比日

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

おののうらのそのゆらぎのよらるるあまゆふのきこえとせむのころ

万解八 五十二

山口女王贈大伴宿禰家持歌一首

大伴宿禰家持歌一首

秋芽子雨置有露乃風吹而落淚者留不勝都毛

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

あきこをよおきたるつゆのかせよきりおつるあまのなみだのぬつも

露

湯原王贈娘子歌一首

大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首

玉梓乃道者雖遠愛哉師妹宇相見雨出而曾吾来之

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

たまがののきけはなごらんあきこをのうれわらばおたるまらつゆ

城ノ嫌
ニ誤

吾妹兒之業跡造有秋田早穂乃纏雖見不飽可聞

わぎしこのたきしつれあさのこのわさびのつづらこれあぬし

まよたのうとまきあぬしあゆし業をむといふこころうさむいふこころの

こころれはやうこころ

又報脱著身衣贈家持歌一首 衣と今夜とやう一衣信く改

秋風之寒比日下雨将服妹之形見跡可都毛思努播武

あきのせのさむしこのころたつよきんいものかみとかつし志ぬん

きんれはまきんかつやうのたえしおひよのぬん

右二首天平十一年己卯秋九月往来

大伴宿禰家持攀非時藤花并芽子黄葉二物贈坂上大

嬢歌二首

吾屋戸之非時藤之目頬布今毛見壯鹿妹之咲容乎

わのやどのまきくさのめづしついまもみてつらむがたまひを

あはれくはむらぬむしあはれくはむらぬ物とえづしつらむあはれくはむらぬ

降とん

吾屋前之芽子乃下葉者秋風毛未吹者如此曾毛美照

わのやどのまきこのきさむあきのうせしいまもいづのねはかくがわみでこ

このねをいづのうぬまのきさむあはれくはむらぬとゆさくはせのゆさく

まづと

右二首天平十二年庚辰夏六月往来

大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌一首并短歌

叩し物乎念者 将言为便将為為便毛奈之妹與吾手携

いさみかものそちりばいんまへせんまへまのしりこれてこころ

拂而且者 庭雨出立 夕者 床打拂

白細乃

母ヲ毎
誤活
二休テ改

まてあたはにをよしてしむゆふいこころをらひきつるの
袖指代而 佐寐之夜也常爾有家類足日本能山鳥許曾
そでさうかへておよおやねあわけるあびきのやまをこころ
婆峯向雨孀問為云 打蟬乃 人有我哉 如何為跡可
ふまむのいふつまごしをもとへつせきのいとなるこれやまふとこの
一日一夜毛離居而 嘆戀良武 許已念者胸許曾
いとむいひもよもとのとみりかきげきこころんこころんむねこ
痛其故爾 情奈具夜登 高圓乃 山雨毛野雨母打
くあそこゆるふこころがらやとたのまものむまあしぬまこころ
行而 遊往行 花耳 丹穗日手有者 每見益而
ゆまろあそがしゆげとをまのみまむいしてあればふるごままろ
所思 太何為而忘物曾 戀云物宇

万解ハ 五十五

おまゆいこあてわられしものぞこころのよ

叩こいこりくとをよあれがよしと叩こまも叩同也發也まこれん必ほま
ぢまへ一かな町をゆるとほまらん町のほまこ叩嘆のこころんおこころ
ふかまへ一柳の下林のま一かなまをゆるままわらあやのやこころ
あやうくやむとけいふまこころのまむらひふかまのまゆてほま改ま
おこまへりまをよへへんそこまをよこれあま野尔のま毎に母のほん
花のこ四まこのこりひいてあまあまをまましくせりま

反歌

高圓之野邊乃容花面影雨所見乍妹者忘不勝裳
たのまものぬべのかがたまねわげまふまついむわされぬつし
かや花ま十やまのせいのやまみまらこのまこころまふまこころ
ほくおほく種花うんといそれまかやこころあまのまおれまひ下せま

大伴宿禰家持贈安倍女郎歌一首

今造久邇能京爾秋夜乃長爾獨宿之苦左

いまつゝとよのみやこもあきのよのたのまじよしいとちぬるさうらひ

後紀天平十二年十二月戊午經畧山脊國相樂郡恭仁鄉以擬遷都故也

丁卯皇帝在前幸恭仁宮始作京都矣

大伴宿禰家持後久邇京贈留寧樂宅坂上大娘歌一首

娘ハ娘ト曰ト

足日本乃山邊爾居而秋風之日異吹者妹乎之曾念

あびきのやまへよとちてあきのひのいづこよけはひとちがかり

ひなげはひりきりきり

或者贈尼歌二首

手毋須麻爾殖之芽子爾也還者雖見不飽情將盡

保保
保保
誤

佐保河之水乎塞上而殖之田乎
尼作
前早飯者獨奈流信
思家持續

てよまのうちをきまやかちていみれがあつてこつてん
衣手爾水溢付左右殖之田乎引板吾波倍真守有栗子
水乎引板へ引板いたしり子母く猪廬とやちるらんふ
引くゆきゆ板とりふたニそくかきてそごう女の尼まなま
たるはまてよあるまやまのめの子の女子とをまこくここの田ふ
たふこつて栗子の信守の地み栗極あや
尼作頭句并大伴宿禰家持所詠尼續末句等和歌一首
た或者まこつてあつてと尼か持て二人まこつて目録上等の字

大宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首

沫雪保孺呂保孺雨零數者平城京師所念可聞

あこゆきのほごらふふふちけはむらのみやくおんかゆるも

ひららひを帯もれとあまほくむらむをまうくはあまのこ

のーハゆゑ

大宰帥大伴卿梅歌一首

吾岳雨盛開有梅花遺有雪字亂鶴鳴

わづをうみさとのらひさけらめのみまのこれるゆきとまき入つるも

あまの雪とひい雪あつりまきぬ

角朝臣廣辨雪梅歌一首

雄略紀小廣火宿祢後紀小弓宿祢喪來

時獨留角国是以大連為奏於天皇使留居于角国是角臣等初居角国而

名角臣自此始也とゆ辨日派と辨云也

沫雪雨所落開有梅花君之許遣者與曾倍氏牟可聞

あこゆきふららるるきんらめのみまきふがらばよそへてんのも

梅のむとちりりんやふゆきまうてまひいりんやと

安倍朝臣奥道雪歌一首

後紀宝龜五年後四位下まき卒とゆ

棚霧合雪毛零奴可梅花不開之代爾曾倍而谷將見

たきぎあひゆきいさぬのうめのたまさのあがさるよそへてまひん

棚のあつらひをささるあがらひゆさるうはれりし梅のさる代

みよそへんさんとりん

若櫻部朝臣君足雪歌一首

履守紀三年長真鴨連本姓と稚櫻部

造と改よりスゆ

天霧之雪毛零奴可灼然此五柴雨零卷乎將見

あもぎあひゆきいさぬのいちらるこのいつたふまきとらん

誤ヲ及ニ

うめのかげりうめのかげりうめのかげり
五葉原とよりうめのかげりうめのかげり
うめのかげりうめのかげりうめのかげり

三野連石守梅歌一首

後紀延暦五年陰陽助正六位上路三野真人石守言と父馬養姓無路字而今石守猶著路字請除之許馬と云ゆかたねのうめのかげり

引攀而折者可落梅花袖雨古寸入津染者雖染

しきよちてふらハちるえふめのかげりうめのかげり

こきれハ袖よとまきつるへ葉十八のうめのかげりうめのかげり
うめのかげりうめのかげりうめのかげり

巨勢朝臣宿奈麻呂雪歌一首

吾屋前之冬木乃上雨零雪乎梅花香常打見都流香裳

わがやのふゆきのうめのかげりうめのかげり

冬木ハこの後をまよとてうめのかげりうめのかげり

そ木の梅とよまき

小治田朝臣東麻呂雪歌一首

夜干玉乃今夜之雪雨率所沾名將開朝雨消者惜家牟

ぬがし玉のこよひのゆきよいぬれあかあたるさるるをうめのかげり

ぬれあかぬれん

忌部首黑麻呂雪歌一首

梅花枝雨可散登見方右二風雨亂而雪曾落久類

うめのかげりうめのかげりうめのかげり

枝よあかこいしりて

紀少鹿女郎梅歌一首

十二月雨者沫雪零跡不知可毛梅花開含不有而

志をばらばあひゆきふるもたぬゆめをまはくくうらうらうして

志をばらばあひゆきふるもたぬゆめをまはくくうらうらうして

由 其弱如水沫

はるもくくうらうらうして

大伴宿禰家持雪梅歌一首

今日零之雪雨競而我屋前之冬木梅者花開二家里

けふもろしゆきふるもあひてわのやどのうめはよきまひなり

争ひつる梅と冬木といつる也

御在西池邊肆宴歌一首 後紀天平十年秋七月癸酉天皇御大

藏省見相撲晚頭御西池宮とあり

池邊乃松之末葉雨更雪者五百重零敷明日左倍母將見

豎ッ堅
ニ誤

いけのべのまつのうらふよふもゆきはいりけあきもくもみむ

うらふよふのまつといふ

右一首作者未詳但豎子阿倍朝臣蟲麻呂傳誦之

大伴坂上郎女歌一首

沫雪乃比日續而如此落者梅始花散香過南

あきゆきのこのころつぎにがふれはうめのをりまふちりのもききるん

池田廣津娘梅歌一首

梅花折毛不折毛見都禮村母今夜能花爾尚不如家利

うめのをるをやもしもふらふみつれいこまのをるはのふたのびくわ

とあはくわつてえれらむしとてあはるるまふたのびくわ

人のあはれあはるるまふたのびくわ

縣犬養娘依梅發思歌一首

如今心乎常雨念有者先咲花乃地雨将落八方

いまのこころはこころとねよおほくはまきくはつちのつちよはちちるも

まきくはつちのつちよはちちるも

まきくはつちのつちよはちちるも

まきくはつちのつちよはちちるも

まきくはつち

大伴坂上郎女雪歌一首

松影乃浅第之上乃白雪乎不令消将置言者可聞奈吉

まつかげのあしまたのうへにのしろゆきをよとほしめしをいひてめくこと

まきくはつちのつちよはちちるも

まきくはつちのつちよはちちるも

まきくはつち

冬相聞

三國真人人足歌一首

高山之管葉之努藝零雪之消跡可曰毛戀乃繁鷄鳩

たかやまのさきのはねのむらさきのけむりのいづれにのさげく

まきくはつちのつちよはちちるも

まきくはつちのつちよはちちるも

まきくはつち

大伴坂上郎女歌一首

酒杯爾梅花淳念共飲而後者落去登母與之

さかづきにうめのみをいっしょにのみてのちちちるも

まきくはつちのつちよはちちるも

和歌一首

官雨毛 縦賜有今夜耳 將飲酒可毛 散許須奈由米

つゝのふしゆをたまへしこよひのもののもんきけかもしちりこもよゆらん
たはまはつるあし、親しきおひきとまうよるまはるはる付のちん、この向まへ

かへ、散ハ梅の花とり、ちりこもよゆらん

右酒者官禁制備京中閭里不得集宴但親親一二飲樂

聽許者縁此和人作此發句焉

藤原后奉 天皇御歌一首 后の上皇の子を為さる、不比等々の女

光明皇后と申せしん、天皇ハ聖武天皇也

吾背兒與二有見麻世波幾許香此零雪之懽有麻思

わのせこしとふりふもせびくなくこのあさゆきの、うらひのうま

みよせやハハるくありせびく

池田廣津娘子歌一首

真木乃於上 零置有雪乃敷布毛所念可聞 佐夜問吾背

まきいへはふりおけるゆきのまきもむんがゆきのまきよとへわのせ

まきハ梅也、上ハまきといへん、念のまきハ後迄まき、夜問ハとりの、まきハ此

後移ろくも、浮字ナラズ

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

梅花令落冬風音耳聞之 吾妹乎見良久志吉裳

うめのたまちりもあらしのなごみききわきとみりうも

よハまきといへん、念のまき

紀少鹿女郎歌一首

久方乃月夜字清美梅花心開而 吾念有公

ひさかしのつよをきよめづめのたまひらけく、このわへるまき

梅花ハ上ノ所といへん、念のまきハ、このまきハ、月夜清美、梅花心開、而、吾念有公

